

相談支援の視点

福祉マインドと主体者を考える

彦愛犬地域障害者生活支援センター

ステップアップ21

相談支援課 木村 和弘

自己紹介



- 木村 和弘 (相談支援専門員)
-  相談支援課 所属
- 彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町で構成する湖東圏域の相談員
- 相談は精神障害の方、中・軽度知的障害の方の相談が多い。



趣味は釣り（釣歴3年）

昨年のワールドカップ以来、親子ともどもラグビーのファンに



本日の要点

1. 福祉マインドを知る。
～何をなぜ支援するのか?～
2. 課題の主体を考える。
～この希望は誰の希望?～

1. 福祉マインドを知る。

対人支援の考え方

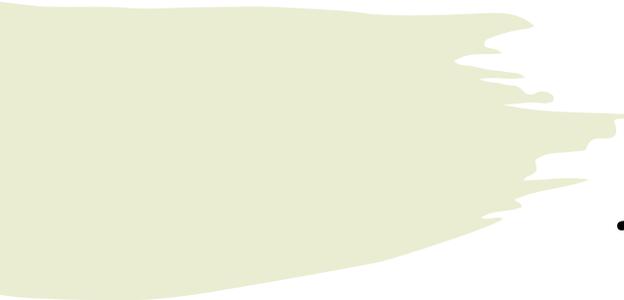
- 医学モデル (Safety first)

リスクを取り除くため、課題を解決すること

「困っていることはないかなあ？悪いところはないかなあ？」

医学モデル（ Safety first ）を使う場面

医療や交通、工場の現場作業など、失敗が怪我や大きな事故などと直結する場合に有効な考え方。

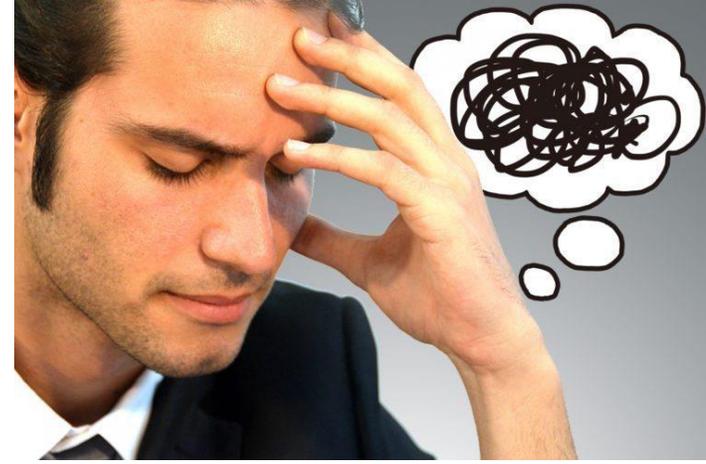


ひと昔前までは、対人支援とは、
この医学モデルだけ

しかし

通常的生活場面に医学モデル
の考えを持ってくると…。

日常生活に 医学モデルするのデメリット



- 悪いところ、課題に着目
 - 自分の悪いところばかり指摘される。
 - 悪いところを克服する為の生活にへトへト
 - ◆他者の評価を気にする。
 - ◆他者に悪い評価されないように攻撃的になる。
 - ◆でも悪いところが0になることはない。

そこで新たに出てきたのが

- 生活モデル (Risk taking)

リスクを負いながらも自分やりたいことをすること。

「したいことはないかなあ？良いことはないかなあ？」

これが **福祉マインド**

医学モデルと生活モデルの違い 「なんで？」ってつっこむのはどっち？

• 問1

歯みがきを毎食後している私、丈夫で虫歯一本もない状態。今日は、風邪をひいてしまって、熱が38.5度。もうフラフラです。

そんな私が今日病院に行き、

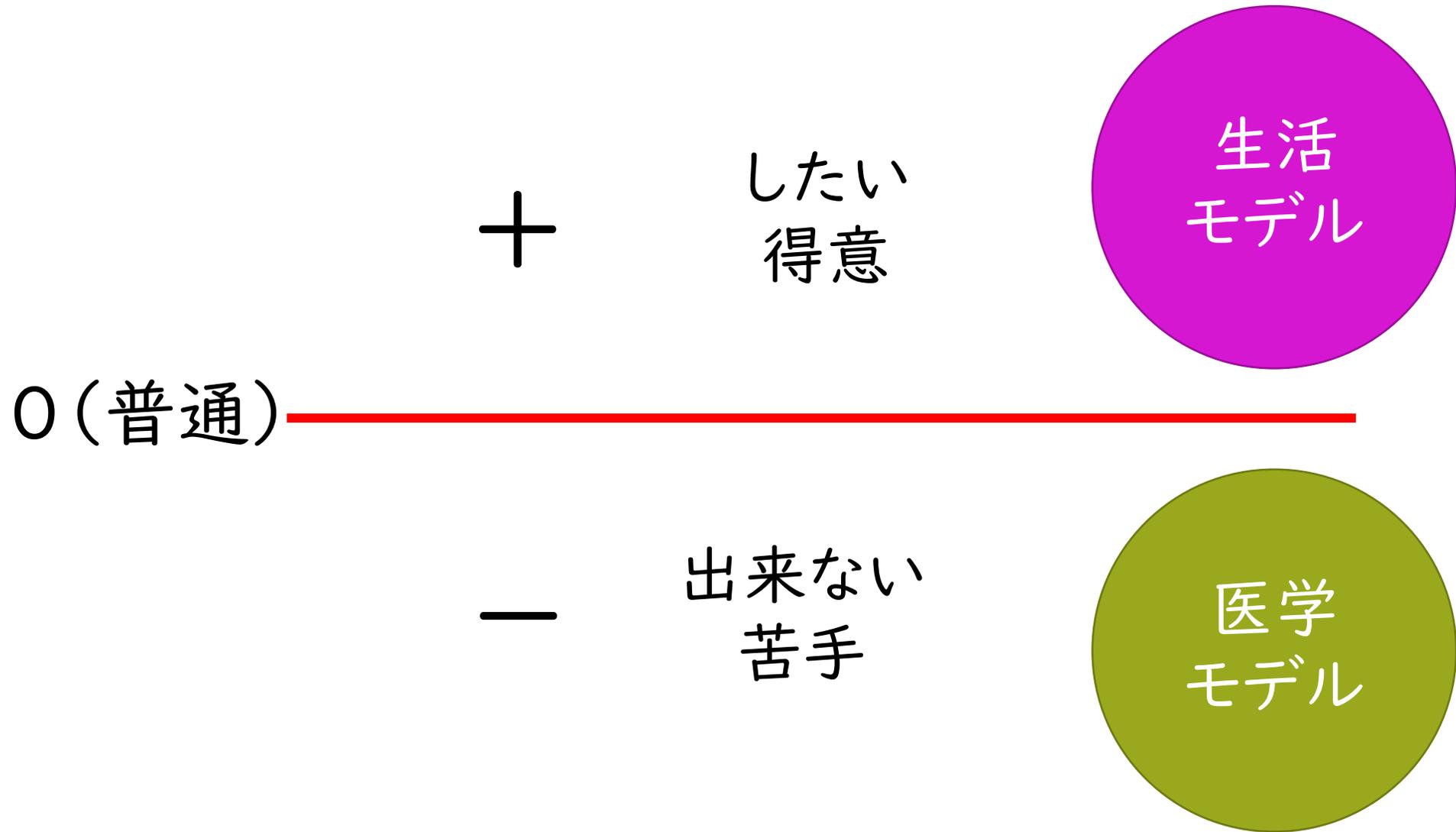
- ① 内科を受診しました。
- ② 歯科を受診しました。

• 問2

高校3年生の春、進路を考える時期。得意科目が日本史、苦手な科目は英語

そんな私が進路を

- ① 英文学部に決めた！
- ② 日本史学科に決めた！



生活モデルがマイナスの部分支援する時

- 目的なく、マイナス部分を支援しない。
- 目的がある時、目的にそった目標を達成する為に必要な部分のみ支援を行う。
- プラスの目的、目標があることがマイナスを支援する条件である。

2. 課題の主体を考える。

課題の主体を考える。

- 高校2年生の女の子と母親の会話。

母：「A子ちゃん、いつも言ってるけど、お弁当箱を早く出してや、いつまでも洗い物が終われへんわ」

A子：「もう!うるさいなー。」「出すやんかー」

母：「はー!何その言い方、あなたがいつまでも出さへんから、お母さん洗い物終わらないでしょう!!」

A子：「それならお母さんが出せばいいでしょう。」

母：「なんでお母さんが出さないとあかんの!!」

Q. さて、お弁当箱をカバンから出してくるのは誰の課題??

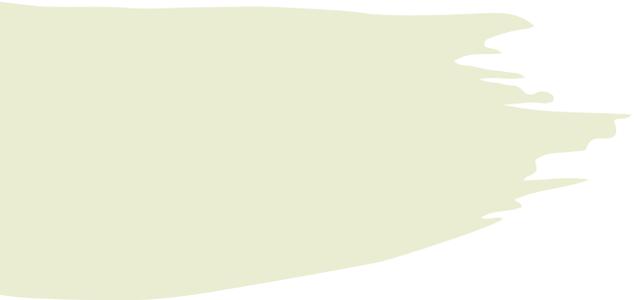
- 正解は

母親の課題

世のお母様 怒らないでー

なぜなぜ 母の課題？

- 課題の主体者とは、その課題をクリアにすることでメリットがある人が課題の主体者。

- 
- 母親のお皿洗いのミッションを早く終わらしたい
為に、お弁当箱を出してもらいたいのならそれは、

母親の課題。

そんなの納得いかないあなたへ

- 事前にルールを決める

ルールは、その物事に沿ったもので、

ルールを守らなかったことで与える罰則は適量で

例)

19:00までに出示してもらえないなら、洗わない。

(自分で洗ってください。)

朝、06:00までに洗って、弁当箱を所定の場所に置いとかないとお弁当は詰めない。

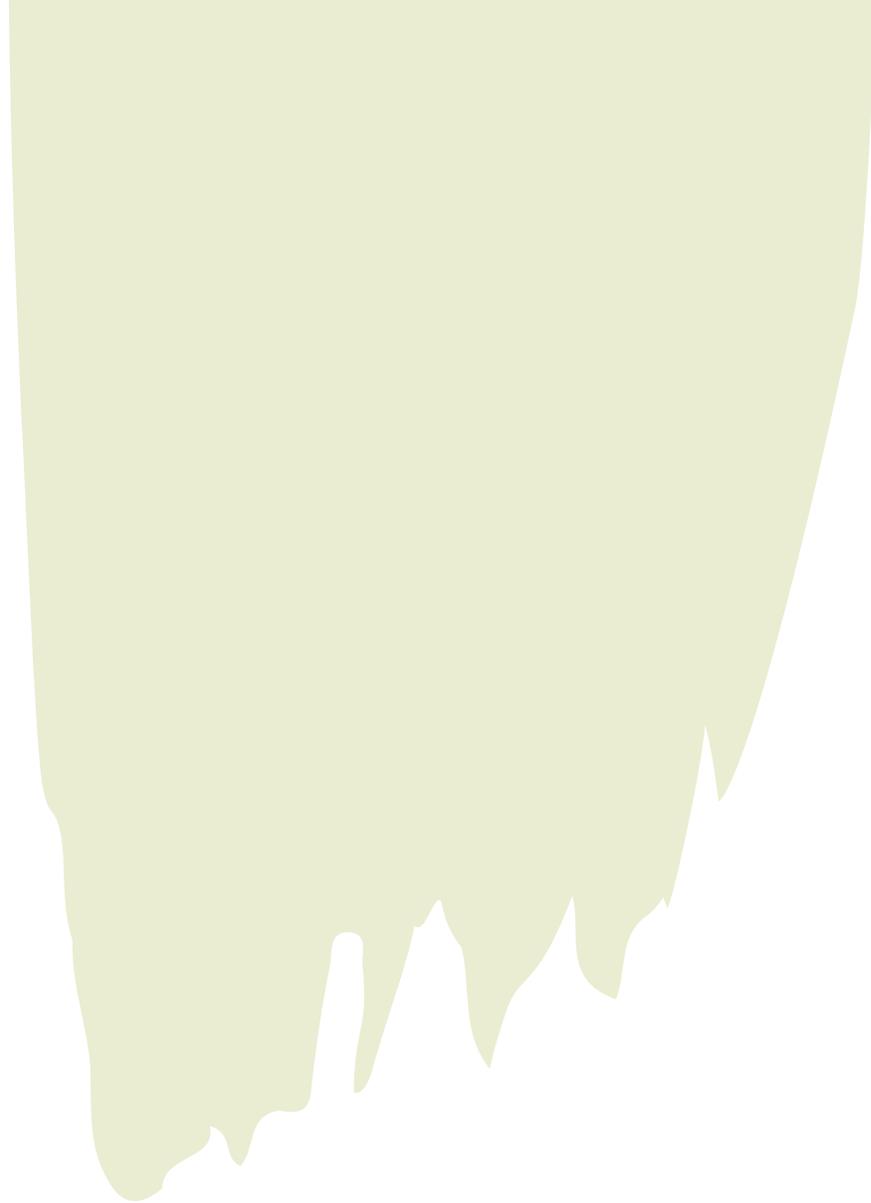
(自分で詰めてください。)

※お弁当を作らない。おかずをつくらないは、罰則としては過剰になります。

→弁当箱を出さないことでお弁当を作れない。おかずを作れないわけじゃない。

一度決めたルールはその日の自分の気分、相手の感情によって変更をしない。

3. 私なら



例えばこんな事例

- 85歳の女性からヘルパーさんのサービスをお願いされ、ケアマネさんが初めて家に訪問した時、2階で物音がした。ケアマネさんが誰かいるのですかと聞くと57歳になる息子がいてると言われ、夫が亡くなった、40歳の時から引きこもり状態で、家から出たことがないとのこと。
- ネットで買い物をするが、お金を使いすぎる為困っている。なんとか外に出て行ったもらえるように支援をしてもらえないだろうか？
- と母親から相談があったのですが、木村さんならどうします？

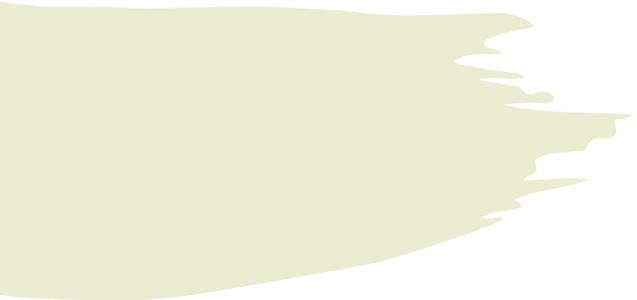
わたしが提案する支援は

- お金を使いすぎて困っているのは誰？

母（85歳女性）

- どんなルールにする。

本人に家の経済状況を説明し、1か月で本人が使えるお金は、いくらまでかを決めて、それ以上は、買い物が出来ないことを伝える。それ以上に、お金が欲しいなら、収入をどのようにして得るか、相談できるところがあるから相談してはどうかと伝える。



本人が外に出てほしいと母が思っているなら、母が好きなことを、やりたいことをして、生活を楽しむことで、

外は楽しいそとうと思ったときにはじめて、外に出るきっかけになることを伝えます。

まとめ

- 福祉マインドは、悪いところを支援するのではなく、やりたいこと、したいことを支援する。
- 誰の課題なのか？
- 課題の代行をしてない？させてない？
- 出来ることは「伝えること」